

4 周辺環境

国の名勝二見浦の指定地周辺は、まず隣接地として三重県名勝の指定地とその近辺、表参道沿いに J R 二見浦駅まで広がる景観計画区域重点地区、今後国の名勝として追加指定を検討する地域の 3 つがあり、さらにその外側には漁業集落のまちなみが残る今一色、山田奉行・花房志摩守とゆかりのある西、神宮御園を有する溝口、かつて贄海神事にえのうみのしんじが行われた神前海岸こうさきを含む松下などの地区がある。

三重県名勝の指定地とその近辺は、茶屋地区の旅館街で構成される。通りの両側には入母屋、切妻造の木造建築が往時を偲ばせている。旅館街には戦前の木造建築も多いが、一方で建物の新築、取り壊しも見られ、街なみとしての一体感が損なわれてきている。

景観計画区域重点地区は、二見興玉神社入り口から二見浦海水浴場手前にかけての海岸線に始まり、旅館街の一本南の旧二見道に沿い、現在の表参道両側に広がり、J R 二見浦駅までを包含しており、「伊勢市景観計画」に基づき、指定されている。国の名勝指定地の二見浦海岸の大半と県名勝指定地の全域が、この景観計画区域重点地区に含まれるが、ここでは名勝指定地と重ならない地域を取り上げる。二見道沿いには木造の町屋が残り、表参道沿いにも古くからの店舗が見られる。また、生涯学習センターやデイサービスセンターなど公共施設も立地している。

今後、国の名勝として追加指定を検討する地域は、御塩殿神社の西から五十鈴川河口にかけての高城浜ちやうがはま（長官浜）と呼ばれる砂浜海浜で、背後には沖積層の低地が広がり、中央構造線が付近を通るとも推定される区域である。二見浦公園には含まれないので、園地としての整備は行われていないが、クロマツの補植・育樹が行われている。今一色には、水神や秋葉の神を合祀した高城神社、その隣に幕末の砲台跡があるが、砲台跡は宅地造成のため半壊している。

また、二見町西の五十鈴川沿いには、海水面の変動により明治年間に打越浜から移設された御塩浜がある。二見浦から離れた場所であるが、ここで作られた鹹水が御塩殿に運ばれ、神宮に収める御塩が作られることになるので、神事としての一連性を有する。

次に、名勝隣接地の周辺部について概説する。

今一色は漁業集落のまちなみが残り、漁業はノリ養殖が主である。かつては伊勢鎌の生産でも知られ、鍛冶屋も 70 軒ほどあったが、今では絶えてしまった。

西は第 7 代山田奉行・花房志摩守幸次よしつぐとゆかりがある。九鬼守隆が横領していた二見郷 6 ヶ村の神領復歸に尽力した志摩守への感謝報恩のため建立した花房志摩守供養碑（市指定文化財）がある。また、志摩守の徳をたたえる箕獅子舞（市指定文化財）が伝わっているが、現在は規模を縮小し、花房志摩守供養碑前でのみ舞が披露される。

溝口には神宮御園があり、諸祭典にお供えする野菜・果物が栽培される。毎年春分の日には、域内の祭場で御園祭が執り行われる。

松下の神前海岸では、かつて贄海神事が行われていた。アラメやワカメをとって内宮の御饌料としていたが、明治初期に廃絶した。付近の潜島くぐりしまに注連縄をかかげる神前普請こうざきふしん（市指定文化財）は、その準備奉仕として行われた行事が現在まで残ったものと考えられる。